

平成28年度 第1回小田原市食育推進計画策定検討委員会 会議概要

- 1 日 時 平成28年8月25日(木) 午前9時45分から午前11時30分
- 2 場 所 小田原市役所 3階 301会議室
- 3 出席者
委 員 稲葉委員(委員長)、大寶委員、柏木委員、小谷委員、佐久間委員、佐宗委員、
西田委員、松本委員、安野委員
(欠席 遠藤委員(副委員長)、飯野委員、鈴木委員、高橋委員)
市職員 日比谷理事・福祉健康部長、杉山福祉健康部副部長、地域安全課府川主事、
生涯学習課内田主事、環境政策課岡部主査、高齢介護課古瀬主査、保育課
石田主査、産業政策課内藤主任、農政課村上主査、水産海浜課岩本主事、
教育指導課堀田指導主事
事務局 吉田健康づくり課長、茂川健康づくり課成人担当副課長、吉川健康づくり課
母子保健係長、健康づくり課田邊主査、健康づくり課青木主任、健康づくり
課白木主任
- 4 配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 資料1 小田原市の概要
 - ・ 資料2 小田原市食育推進計画策定検討委員会スケジュール
 - ・ 資料3 小田原市の食育に関わる事業
 - ・ 資料4 小田原市食育推進計画の新計画の構成・骨子(案)
 - ・ 事前送付資料 第3次食育推進基本計画の構成
 - ・ 事前送付資料 第2次神奈川県食育推進計画(食みらいかながわプラン2013)
 - ・ 別途送付資料 小田原市食育推進計画
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容
 - ・ 委嘱状交付
第2期食育推進計画策定検討委員会の初回になるため、市長より各委員へ委嘱状の交
付を行い、市長が挨拶を行った。
 - ・ 委員及び職員の紹介(委員は自己紹介、職員は健康づくり課長より紹介)
 - ・ 委員長及び副委員長の選出
立候補がいなかったため、事務局提案により委員長に稲葉委員、副委員長に遠藤委員が
選出され、承認された。その後、稲葉委員長が挨拶を行った。

(1) 小田原市食育推進計画策定検討委員会について

吉田健康づくり課長が、委員会の規則・趣旨、会議の公開等について説明

吉川健康づくり課母子保健係長が、資料1・2、事前配布資料1・2、別途送付資料について説明

【質疑等】

安野委員 資料3の説明をお願いしたい。

事務局 資料3についてはこれから順番に説明させていただく。

稲葉委員長 計画の策定について、意見等があればお願いしたい。

安野委員 小田原市食育推進計画の13ページの計画（基本目標）の策定の仕方だが、前回はそのまま踏襲するのではなく、今回は今回で検討をするのがよいと思う。

稲葉委員長 第1期の計画を踏まえてということによろしいか。

安野委員 委員長からお話しいただいたように、しっかりそれを踏まえながら行うが、その検討の仕方については、各委員には意見を言う機会はあるのか。

日比谷理事・福祉健康部長

機会はある。おそらく計画の構成上、いわゆる基本理念、基本目標、ある程度スタンダードな作り方がある。そういう中で基本目標というところについて、それをどういう設定するかというところについては、事務局案を示させていただき、意見交換をいただいて、そこで安野委員のご意見等が反映されればそれでよろしいかと思うが、そういう場面を用意していきたい。

安野委員 承知した。時間的な制限もあるが、資料を読ませていただき、このできている資料の中で、基本目標など十分変えられる内容がここにはあるという意見を、私は持っている。

吉田健康づくり課長

意見等はどんどん言っていただきたい。

安野委員 承知した。

稲葉委員長 本日議題の4番目の新計画の構成があるので、事務局案として提示されたものに対しご意見等をいただきたいと思う。

安野委員 承知した。

稲葉委員長 他に何かあるか。ないようであれば、ぜひ意見を出していただき、よりよいものを作っていきたいと思う。

(2) 小田原市の食育に関わる事業の取組状況について
健康づくり課田邊主査が資料3について説明

【質疑等】

稲葉委員長 事務局からの説明で、新規事業も含めて質問等はあるか。

柏木委員 脳血管予防プロジェクト減塩メニュー事業について、スケジュールで販売提供開始と書いてあるが、だいたい何店舗ぐらいで予定をしているのか。

茂川成人担当副課長

資料の準備が間に合わず、当初の予定と異なっており、店で販売する計画でスタートしているが、実際に打ち合わせが始まった段階である。今年度は健康食を意識してもらおうということで、市民の皆さんに料理コンテストを行い、減塩の普及を行うところから始める形となり少し計画が変わっている。その中でコンテストに入賞した作品、メニューを販売できる場所をその後調整していくという形になっている。今の計画では皆さんが毎日食べるであろう、減塩味噌汁メニューの開発のコンテストを行う形で動いている。

安野委員 この減塩味噌汁メニューを市役所7階の食堂で提供することはないのか。

茂川成人担当副課長

できたらいいと思う。

稲葉委員長 市民参加というモチベーションが上がることで、とてもいい計画ではないかと思う。ほかに何かあるか。

佐久間委員 資料3-1の短期集中通所型サービスとあるが、こちらの事業展開について、高齢者のデイサービス等があるが、そういうものとは別に公民館の所在している場所で行っているのか。

高齢介護課古瀬主査

高齢介護課から説明をする。短期集中通所型サービスについては、小田原市内8か所の地域包括支援センターがあるが、そちらの地域包括支援センターの担当圏域ごとに実施するという形をとっている。医師介助について今まで実施したところは、市民交流センターUMECO、小田原市社会福祉協議会、小田原医療福祉会館である。今後は梅の里センター、市の行政施設、公共機関の施設の中で実施をしていく。

稲葉委員長 他に何かあるか。質問がなければ議題3のアンケート集計結果について、事務局から願います。

(3) 市民アンケート集計結果について

健康づくり課田邊主査が、事前配布資料3について説明

【質疑なし】

(4) 小田原市食育推進計画の新計画の構成・骨子（案）について

健康づくり課田邊主査が資料4について説明。

【質疑等】

稲葉委員長 資料4の新計画について何かあるか。

安野委員 資料4について提案する。前の計画で概要版があるが、小田原市食育推進計画でいうと12ページである。この「生産からつながる食」のイメージ図が良いと思う。まず生産、食の安全安心、収穫、食材の購入、調理、食べる、健康で生きる、暮らすと、食育に関する大事なキーワードが全部入っている。その右側に「生ごみ」があるが、その生ごみの堆肥化、家庭菜園などだが、私の場合は矢作小学校の学校菜園など、お手伝いを少ししている。この図を全体的にみると、1番目の収穫である。作物をとったり、魚を捕ったりするわけだが、収穫があり、その次に食材を購入する。食育には食材というものがなければ食育にならない。次に出てくるのが調理である。食材があり、調理がなければ食育にならない。調理という言葉がある。その次には、当たり前のことだが、食べるということある。この食材と調理と食べる、食べるというのは食習慣であったり食文化であったり、食の食べ方は、家族一緒に食べるのか一人で食べるのか、いろんな要素が含まれる。基本目標をこの「生産からつながる食」のイメージ図に沿って作っていただけるとわかりやすいと思う。

その次に生産というところも矢印が出ているが、実は収穫の前に生産がなければだめである。食材があって、調理があって、食べるがあって、生産があるという、その大きな分類で基本目標を立ててもらいたい。自分もこのイメージ図を見ながら、食育の実践をずっと続けてきた。このイメージ図の生産、食材、調理、食べるというこの分類で、目標について、基本目標を立てていただき、その基本目標の計画資料の策定をしていくというようになると、前の計画と新しい計画とも実はつながっていくのではないかと思う。

稲葉委員長 考え方かと思うが、第1期の計画が全体をとらえて、問題になることを総花的という形でできているかと思う。それから年数が経ち、第2期という形になるので、先ほどのアンケートも踏まえ、食育というのは非常に広くて深いと思う。全部を網羅したいが、その中のどこに重点を置

くかということが、今回第2期に必要なのではないかと思うが、全体をとらえるのはもちろんだが、その中でどこがこの数年の間にうまくいつてきたところと、それからまだまだ取り残されている部分と、これから新たに問題が発生した部分かというようなところをアンケートの結果を踏まえながら、絞り込んでいくものと理解している。

安野委員

その趣旨に反対ではないが、例えば生産に関する事項のアンケートの結果、食材に関するアンケートの結果、調理に関するアンケートの結果、食べるという食習慣の、それに関するアンケートの結果、と分類しているが、よくわからない。資料もできたらそういう意味で生産、食材、調理、食べるという感じで資料を見るには、やはり「生産から食につながる」イメージ図が良い。そして次はどこに重点を置くのか。自分の体験から、現代社会の男性も食ということに関心を持てるような啓発活動をしていったらよいのではないということ、学校がこれから社会で大事なものになっていくので、学校を中心とした、給食を中心に食育を通じた文化を創造できる、先ほど言われたように、日本のたとえだったら味噌のように、幼稚園、保育園から小学校という中での食育の体験の積み重ねが大切であると考えている。

稲葉委員長

事務局から何かあるか。

事務局

貴重なご意見をいただいた。確かにこの「生産から食につながる」イメージ図の流れというのは食に関する基本的な流れとなっているので、いただいたご意見は参考にさせていただき、必ず基本目標と合致するかどうか、どういう形にできるかわからないが、少し練り直して、第2回の検討委員会で提示させていただきたい。

日比谷理事・福祉健康部長

他の方の意見も賜りながら行いたいということによいか。

事務局

その方向でお願いしたい。

日比谷理事・福祉健康部長

委員がおっしゃるように視点から整理するのもある。委員長が今おっしゃったように、前からの計画を連続させる中で強化をするもの、新たに加えるものという、事務局ではそういうことで整理させていただいたと思う。

安野委員

連続性は認めている。むしろ連続性を明確にしてほしいと言っているわけで、「生産から食につながる」イメージ図、これで一貫してほしい。

稲葉委員長

冊子を作る段階で、そういうことをまず基本に盛り込みながら、第2期の重点的な目標を設定してほしいということによいか。

- 安野委員 議論の中で食育は生産から食べるまでの流れがある、その辺の分別をした絵コンテの作り方や資料の作り方をしてほしい。
- 稲葉委員長 それに関連することや他に全体的でも、所属されている団体の立場から話していただけないか。
- 佐久間委員 5年はとても長いと思う。人口の構成部分というか課題の構成部分がつぼ型であり、やはり5年後の小田原市の姿を年齢別によく見てほしい。短くみえても食に関しては、それに追いつき、リードしていくような、5年後を創造して、もっと健康で小田原市民が生き生きとし、小田原ってすごくやっぱりいいところで日本でも小田原はこんなにいいんだと自信が持てるような、そのような前向きなイメージで、5年計画を作っていけたらと思う。様々な問題があると思うが、それをやはり年号を見据えて、どの世代も明るく楽しく健康で過ごせるような、そういう目標もある、5年もあると思う。
- 稲葉委員長 現状の悪いところを直していくという考え方も一つだが、そうではなく、それにプラスして、未来を見据えてより健康になるために、そして平たんになるために、そういった視点がほしい。
- 安野委員 今の話ですが、夢のあるということでは実際、学校菜園では夢のあることがあった。ちょうどサツマイモを作っているが、さつまいもを移植した後の手当が悪かったため、雑草がすごくはびこってしまった。その雑草をとっていたところ、地下茎で増える雑草等の勢いがあり、そういう風に本格的に雑草に自分自身が飛び込んでみて、自分たちに都合のいいサツマイモを守るためにどんどん雑草を切って抜いていくことを通して、雑草もかわいそうだと思えた。それは、母親が半月前に亡くなり、そのときに母親のおむつの交換を行うことができなかった。しかしヘルパーさんだけでは、難しい。末期的ながんだとおなかが膨れ上がって死んでいく。母親の尊厳を守るというのは、母親自身では守れない。まわりの家族が守ってあげないといけない。つまり、命は託さないといけないのだと、介護を通じて入ってきた。雑草を一生懸命とっている間に、可哀想かと思った。食育は、命に直結しているから、どこかで子どもたちが、年老いていく人間が愛というのを感じられるような環境づくりをしていくことが大切だ。
- 稲葉委員長 今日、出席されているご発言をされていない委員からは何かあるか。
- 佐宗委員 この委員会の開催も少ないと思う。例えば、今日事務局から提案された新計画策定の視点について、例えば事務局から引き継ぐ視点、強化する視点、それから新たに盛り込む視点、あとは資料ページ3にもあるが、それについて、こういう視点で策定していったらよろしいのかど

うか、その方向性を詰めていかないといけないかと思う。アンケートを窓口にして、現状を把握して、状況を追ってその概要について、若い世代を中心にした食育の推進を進める視点が大切ではないか。具体的なものについては、また事務局に資料を提出していただくなり、委員さん方から意見をいただくなりで、進めていくものと思うが、この視点については、今日ある程度はつきり方向性を詰めていかないといけない。それから新たに盛り込む視点、多様な暮らしに対応した食育の推進の中で、共食、ともに食事を食べるというのもすごく大切なことだと思う。今これからの世の中、ここで新たに目標に盛り込む視点として入れられているということは、これは妥当なものかと思う。視点としては、こういう視点で進めていくのが良いかと思う。

稲葉委員長

佐宗委員から、基本目標1番から5番まで適切なのではないかとご賛同のご意見をいただいたが、いかがか。その辺のところを今日詰めておかないと、次に事務局がそれに則って、新たな追加した資料を作っていたことになると思うが、それが動かなくなるので、皆様のご意見をお聞きしたい。賛成ですというお声も追加してよろしいか。特に意見がなければ、これでいいとご承諾いただいたと理解してよろしいか。

各委員

(了承)

稲葉委員長

それでは骨組みとしては基本目標の1番から5番までということでこれまでの経緯を踏まえ、またアンケート内容等も踏まえ、改善していかなければいけないところである。また、先を見据えて、この将来を見据えて新たに追加された部分ですとか、そういうものも盛り込まれた目標の項目、この線でいかせていただきたいと思います。

(5) その他について

稲葉委員長

今日の資料に加えさせていただいたが、おだたん食育村レシピ&食育プログラム集について説明させていただきたい。

おだわら食育村は、平成19年から本学で年間2回程度開催している。年1回の時もあったが、年2回ずつやっている。基本的には小学生の親子が対象だが、3月については食材研究をやっており、学生自身も例えばこんにやくは、こんにやく芋から作られているんだとか、こんにやく芋はどのように加工したらこんにやくになるのか、基本として使われている食材に意外と知らないところが多いということで学生と参加者が一体となりそういった学びをしていくことが3月にあり、今まで8月で17回を迎えた。その中で評判のよかった、参加者がま

たやってほしいというリクエストがあったものを中心に、6回分を食育のレシピとして、例えばこんにやくを中心とした料理であっても、こんにやくと主食・主菜・副菜というような形で、バランスの良い食卓を実体験してもらいたいの、こんにやくというメインであっても、いろいろな料理がある。それぞれの回で全6回分について対象の料理、レシピが入っている。小学生が対象なため、全部ルビがあげられている。活用していただく場があればそのまま使っていただくか、コピーして使っていただきたい。まだ在庫もあるので、提供できる。一生懸命作ったので、これをお蔵入りさせてしまうのはもったいないと思うので、ぜひ活用していただきたい。後ろの方にある、「野菜を食べよう」というところで、子供たちに教える時の食育のポイントで、どんなことを伝えられるか教材を交えまして、掲載をしてある。参考にしていただけるようなら見ていただけたらありがたいと思うので、ぜひ眺めていただけたら嬉しい。

安野委員
稲葉委員長

これについて質問とか疑問は、どうすればよいか。
小田原短期大学に連絡していただきたい。その他に何かあるか。事務局から何かあるか。

事務局

次回の開催日についてだが、次回2回目が10月27日の木曜日を予定している。またご案内を送らせていただく。

稲葉委員長

全体を通じて何か質問等はないか。

【質疑なし】

稲葉委員長

では、次回は、10月27日ということでお願いしたい。